

新座キャンパス AV サポート

1. 概要

メディアセンター受付での機器貸出数およびサポート記録に、技術者のトラブル記録表を加味して、2014年および2015年の集計を行った。

機器貸出は増加、サポートは減少した。

2. 利用状況

(1). AV 機器貸出状況

前年に比べ、全体では貸し出し数は増加した。特にノート PC が前年より 90 台増加した。次いでブルーレイ・DVD プレーヤー、ワイヤレスマウスと続く。ノート PC は、利用者が増えたというよりは、教室 PC が不具合または利用者の持ち込み USB が開かない等の際に利用することで、貸し出し数が増えたと思われる。ブルーレイ・DVD プレーヤーも、持ち込まれたディスクが教室にある機器では再生できない場合に貸出した。メディアの多様化により、同じブルーレイでもダビングの仕方(AVCREC)で機種を選んだり、DVD がブルーレイプレーヤーで再生されなかったりまたその反対があったりするためである。一方ワイヤレスマウスは確実に利用者が増えている。教員からのリクエストがあり、期の途中で N431 教室に常設した。

	プロジェクター	スクリーン	ノートPC	DVカメラ	BD/DVD	ICレコーダー	マイク	ラジカセ	VHS	ワイヤレスマウス	ケーブル類	合計
2014年	12	8	1	18	19	3	3	4	2	3	15	88
2015年	6	3	91	15	37	5	9	19	0	36	40	261
前年比較	-6	-5	90	-3	18	2	6	15	-2	33	25	173
前年比較	50.0%	37.5%	9100.0%	83.3%	194.7%	166.7%	300.0%	475.0%	0.0%	1200.0%	266.7%	296.6%

表 1 : AV 機器貸出 2 期比較(機種別)

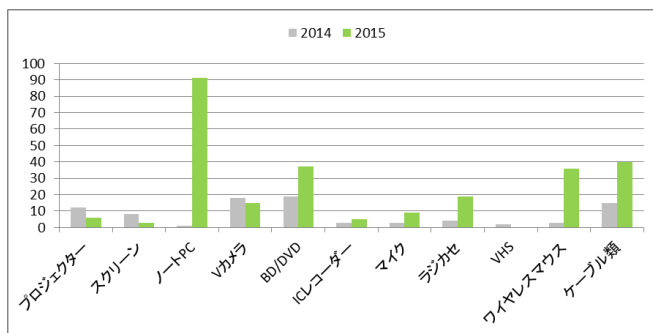


図 1 : AV 機器貸出 2 期比較(機種別)

(2). サポート状況

全体的に前年の約 60%に減少した。機器の改修が進み、AV のパターンが統一され、安定してきたことで、利用者が使用しやすくなったものと思われる。

機器別に見ても、OHC 以外はどれも減少し、PC は常設も持ち込みも含めた全体で、135 件から 81 件と約 2/3 に減少した。OHC については常設していない教室で、毎週使用する教員のために設置したことにより増加した。

TV 会議システムは 78 件から 34 件と半数以下となったが、これは前年度の遠隔授業が実施されなかったことによる減少と思われる。

	設置	操作説明	操作ミス	トラブル	合計
2014年	136	54	68	183	441
2015年	91	30	44	110	275
前年差	-45	-24	-24	-73	-166
前年度比	66.9%	55.6%	64.7%	60.1%	62.4%

表 2：サポート内容 2 期比較

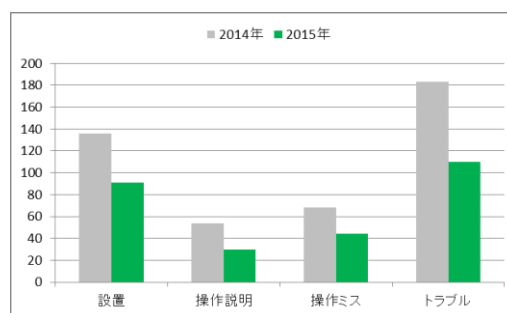


図 2：サポート内容 2 期比較

	PC	持ち込みPC	Mac	BD	OHC	マイク	TV会議	ビデオカメラ	その他
2014年	100	18	17	57	7	48	78	6	39
2015年	71	6	4	41	47	22	34	4	27
前年差	-29	-12	-13	-16	40	-26	-44	-2	-12
前年度比	71.0%	33.3%	23.5%	71.9%	671.4%	45.8%	43.6%	66.7%	69.2%

表 3：サポート内容 2 期比較

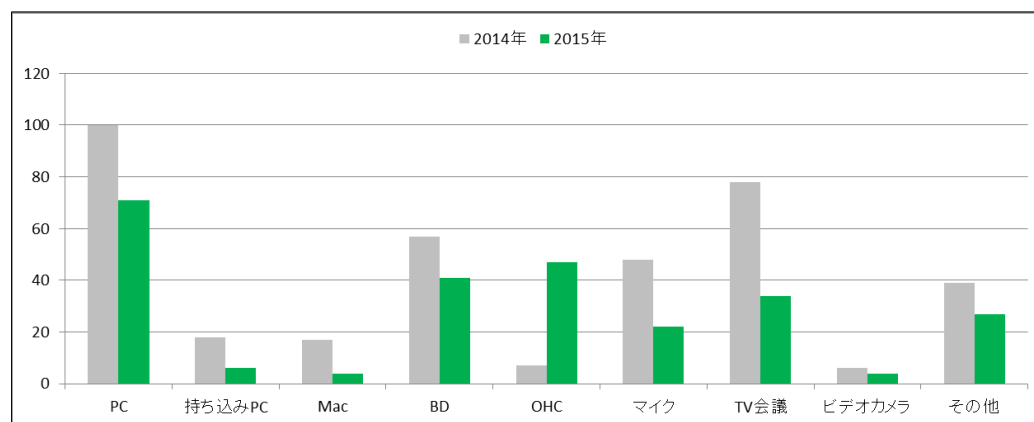


図 3：サポート内容 2 期比較

(3). 機材トラブル

全体では半数近い減少となった。機器の故障は減少したが、特定のプロジェクターの故障が断続的に続き、メーカー側でも原因が特定できないまま利用者に負担をかける面があった。今後障害が起きた時点ではもう少し早い段階で対応してもらえるよう、対処していきたい。

電源 OFF やケーブルの緩み、断線といった不具合も減少した。

	トラブル	故障	ソフト不具合	紛失	接続変更	再起動で再現せず	電源・電池切れ	破損・ケーブル断線	その他
2014年	183	27	3	5	22	25	31	21	73
2015年	110	17	10	6	10	23	15	10	33
前年差	-73	-10	7	1	-12	-2	-16	-11	-40
前年度比	60.1%	63.0%	333.3%	120.0%	45.5%	92.0%	48.4%	47.6%	45.2%

表 4：機器トラブル内容(2期比較)

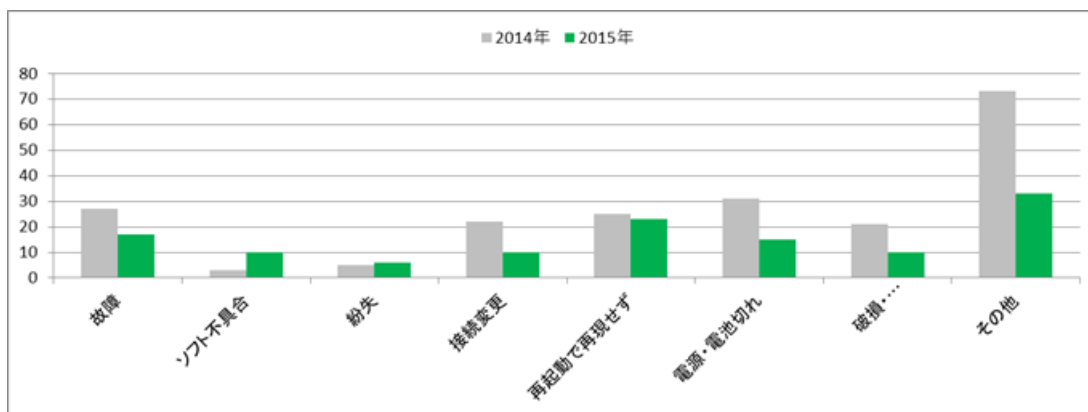


図 4：機器トラブル内容(2期比較)

3. 2015年度のみまとめ

機器の改修の効果が、サポートにも効果を及ぼしたといえる。一方で、ワイヤレスマウスのように新しい機器の需要もあり、今後も利用者の動向を見極めながら、改修やサポートを進める必要がある。